

平成29年2月21日 宮崎県庁会議室
第8回九州厚生局地域包括ケア市町村セミナー

上球磨三町村の取り組みについて ～ 立ち上げまでとチーム活動の状況 ～

熊本県 湯前町 保健福祉課

上球磨地域包括支援センター

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） ～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～

◆ 基本的考え方

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

◆ 七つの柱

- ①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③若年性認知症施策の強化
- ④認知症の人の介護者への支援
- ⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦認知症の人やその家族の視点の重視

- 認知症初期集中支援チームについて【実績と目標値】 が設定された
2014（平成26）年度見込み 41市町村
⇒ 2018（平成30）年度～すべての市町村で実施

体制について

- ◆ 実施主体：湯前町・多良木町・水上村
- ◆ 設置場所：上球磨地域包括支援センター
- ◆ チーム員
 - 医療系専門職：三町村の保健師
 - 介護系専門職：上球磨地域包括支援センターの社会福祉士
 - 専門医：吉田病院(人吉市)の認知症サポート医
(認知症疾患医療センター)
- ◆ 認知症地域支援推進員
 - 湯前町：保健師、嘱託職員
 - 多良木町・水上村：保健師
- 設置場所について

上球磨地域包括支援センターが三町村の共同設置であり、業務委託の中で「認知症初期集中支援チーム」に係る経費を盛り込んでいる。

事業立ち上げまでの軌跡

1. 第6期介護保険事業計画の策定

➤ 平成27年度から地域支援事業（包括的支援事業）に位置付けられた

➤ 平成30年度までには全ての市町村で実施

※平成27年度から設置しない場合、延期するための条例制定が必要

➤ 県の計画策定支援ヒアリング

⇒湯前町の「もの忘れ相談事業」と水上村の「こころの相談事業」については、認知症サポート医が関わっておられ、「認知症初期集中支援チームのような取り組みをされていますね。」と言われる。

事業立ち上げまでの軌跡

2. 三町村と包括での協議

- 認知症サポート医との意見交換
 - ⇒ 上球磨地域包括支援センターから概要を説明
 - ⇒ 三町村に報告され、協議へ
- 平成27年度予算編成、条例改正等協議
 - ⇒ 上球磨地域包括支援センターの平成27年度当初予算に認知症初期集中支援チームの経費を計上（三町村委託料）
 - ⇒ 平成27年度から設置することで、条例制定を不要とした
- 上球磨地域包括支援センター運営協議会へ提案
 - ⇒ 承認され、平成27年度からの取り組みが決定

事業立ち上げまでの軌跡

3. 関係機関への説明

➤ 球磨郡医師会

- ⇒ 理事長に概要を説明し、理事会での説明機会を得る。
- ⇒ 理事会において認知症初期集中支援チームについて説明し、当面の間のサポート医を吉田病院の認知症サポート医に協力していただくこととの了解を得る。

➤ 認知症疾患医療センター（吉田病院）

- ⇒ 院長に面会し、サポート医・精神保健福祉士等の協力を依頼し、了解を得る。

※吉田病院は熊本県認知症疾患医療センターであるため、いずれは上球磨地域でのサポート医を確保するよう依頼あり。

立ち上げにあたって感じたこと

- ◆平成26年度は計画策定等で多忙の中、よくここまでできたなあ・・・
- ◆三町村と包括の「四者協議」なので、協議するには必ず日程調整が必要で時間がかかるが、四者寄れば文殊の知恵が・・・
- ◆関係者が多岐に亘る上、認知症疾患医療センターや医師会など関係機関との連携を図る必要があり、大変な事業だなあ・・・

⇒ 在宅医療介護連携推進事業も同様に

チーム立ち上げ後の取り組み・課題

- ◆ チーム員研修を受講（平成27年9月12日～13日：大阪市）
⇒ 平成28年度にも3名が受講（職員の異動にも対応する）
- ◆ 実際の認知症初期集中支援に取り組みながら、チームの活動やチーム員の役割、手順を作り上げる。
⇒ 上球磨モデルの構築
- ◆ チームと主治医（かかりつけ医）と連携を図るための情報共有ツールの作成
- ◆ 「認知症初期集中支援チーム検討委員会」の設置
⇒ 既存の組織（運営協議会）で対応
- ◆ 上球磨地域内でのサポート医を確保するよう認知症疾患医療センターの協力を得ながら、医師会や地元医師に働きかける。
⇒ 今後の課題

チーム員研修



◆ チーム員研修を受講（平成27年9月12日～13日：大阪市）

○ サポート医自ら「せっかくだから皆でいきましょう」と声かけ。

○ 研修で多くの学びを得たことはもちろんですが、何より得られたものは、チーム員同士の絆。（一緒に行動することで連帯感が生まれた）

上球磨地域の風景及び状況 (H28.12.1時点)

町村名	総人口	高齢者数	高齢化率
多良木町	9,982人	3,792人	38.0%
湯前町	4,090人	1,669人	40.8%
水上村	2,308人	907人	39.3%
3町村計	16,380人	6,368人	38.9%



チーム員活動の現状

【チーム員会議】 チーム員研修受講の翌月から開始

○定期開催（毎月第2火曜日10時）

○会議内容

①新規事例の支援策検討

②継続支援者の状況報告・支援策の検討

○会議参加者

・チーム員

・3町村高齢者支援担当者

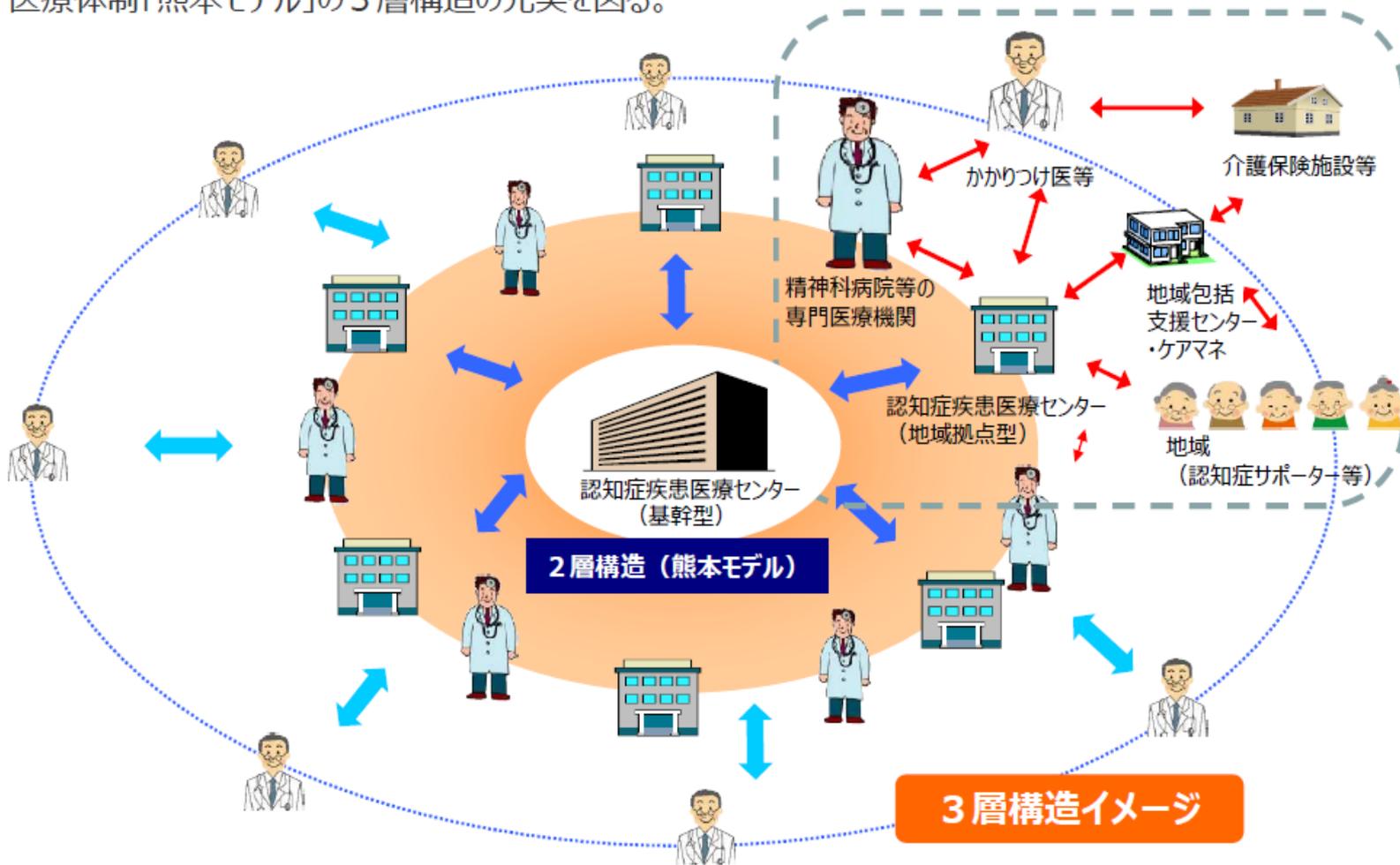
・認知症疾患医療センター（基幹型：Ns 地域型PSW）

・保健所（PHN）

・その他（対象者に応じて必要な者）

3層構造の認知症医療連携体制の充実・強化

認知症疾患医療センターと精神科病院等の専門医、かかりつけ医等との更なる連携強化により、認知症医療体制「熊本モデル」の3層構造の充実を図る。



チーム員会議の様子



チーム員から見た

上球磨地域認知症初期集中支援チームの良いところ

- ・サポート医を含めたチーム員同士が何でも言い合える。
(信頼関係ができています)
- ・自町村・他町村の事例関係なく同じ地域の課題として、積極的なアドバイスがある。
(成功事例を他の町村の同様事例に活かすことができる)
- ・認知症疾患医療センター、行政の高齢者支援担当者のチーム員会議への出席があり、チーム員の活動に対し理解がある。また、様々な立場から助言を得ることができる。

チーム員から見た

上球磨地域認知症初期集中支援チームの課題

・対応期間の長期化

医療系の職員は各町村の保健師業務との兼務、介護系職員は包括支援センター業務との兼務であり、認知症対策のみに活動できない状況。

・かかりつけ医との連携

医師会理事会で活動開始時に説明しているが、医師会に入っておられない先生や支援チームの役割を知らない先生からは、活動について理解されない場面もある。

⇒事例を通して、チーム員の役割を説明し活動を知ってもらう。

いろいろな課題はありますが、地域のために 私たちにできることをひとつひとつ



H28.3.6 認知症キャラバンメイト養成研修
主催:上球磨地域認知症初期集中支援チーム

いろいろな課題はありますが、地域のために
私たちにできることをひとつひとつ



H28.11.12 Run伴参加
町長・サポート医・チーム員・行政(高齢者支援担当者)